

- ◆2025年9月17日発行ラインナップ◆
- ・米国の関税措置に関する日米合意
- ・危険な植物

米国の関税措置に関する日米合意

農林水産省は、先月8月22日 自動車や農林水産物への影響が懸念される中、業界の理解と協力を得て不安を解消し、今後の取り組みに自信を持たせることを目的に「米国の関税措置に関する日米合意に係る全国説明会」を開催した。小泉農林水産大臣は冒頭挨拶で、「現状を正しくご理解いただき、これからの取り組みを自信を持って前に進めてもらいたい」とのメッセージ、特に懸念が強いコメについては、主食用コメの関税削減・撤廃は合意から除外され、輸入総量も増えないため安心してほしいと説明があった。「今回の合意は77万トンのMA枠を維持しつつ米国産割合を増やすもので、市場開放ではない」と強調しながら、お茶や日本酒など輸出品への関税影響も注視し、必要に応じて対策を講じる姿勢を示した。

～米国の関税措置に関する日米協議：日米間の合意～

日米は7月22日、米国の関税措置見直し等で合意した。相互の追加関税は25%から15%に引下げ、自動車関税も半減。半導体や医薬品では日本を不利に扱わない。経済安保分野では半導体やエネルギーなど9分野で強靱な供給網を構築し、日本は最大5500億ドル規模の金融支援を可能にする。貿易拡大では米国農産品やエネルギー購入を拡大し、コメはMA枠内で対応。非関税措置では米国車の輸入簡素化やCEV補助金見直しを行う。

～対米輸出上位の農林水産物・食品品目の関税動向～

2024年の実績に基づくと、米国向け農林水産物・食品の輸出額は2,429億円であり、対世界輸出額14,092億円の17%を占めている中、4月2日の米国大統領令により、対米輸出上位の多くの品目に新たな関税が課せられた。7月22日の日米間の合意では、この関税が見直され、輸入関税率が15%とされ、これまで低関税であった多くの品目で、対米輸出関税が増加、主要品目の関税動向は別表の通りである。（一部抜粋）

出典：農林水産省 対米輸出上位の農林水産物・食品品目の関税動向より引用

対米輸出上位の農林水産物・食品品目の関税動向						
品目	①対米国・輸出額 (億円)	②対世界・輸出額 (億円)	米国のシェア (①/②)	既存の 輸入関税率	大統領令(4/2) を受けた 輸入関税率	日米間の合意 (7/22)を受けた 輸入関税率※注
農林水産物・食品	2,429	14,092	17%			
アルコール飲料	265	1,337	20%	(日本酒) 3セント/L	3セント/L+10%	15%
緑茶	161	364	44%	無税 (風味有) 3.2%	10% 13.2%	15%
菓子(米菓を除く)	66	344	19%	無税～12.2%	10%～22.2%	15%
米	25	120	21%	(精米) 1.4セント/kg (玄米) 2.1セント/kg	1.4セント/kg+10% 2.1セント/kg+10%	15%

(出典) 輸出額は、財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成 実績は2024年。

※注：米国大統領令におけるEUの記載によれば、従量税は、各貨物の単位当たり価額から従量税を従価税換算した上で15%以上か未満かを判断されることとなる見込み（例えば価額が10ドル/Lの日本酒であれば、従価税換算で0.3%）

今月9月4日（米国時間）米国は関税措置に関する日米合意を履行する大統領令を発表し、相互関税率や自動車・同部品に対する追加関税率の引き下げなど、発表していた合意内容をおおむね履行する内容となった。引続き農林水産省は多くの農林水産物・食品の関税率が上昇したことを踏まえ、事業者への説明会を開催し、生産者や事業者への具体的な影響を把握していく方針としている。冒頭の説明会にて農林水産省は、「米国農産品の輸入拡大は、既存の他国産品との置き換えによって行われるものであり、輸入品の増加には繋がらない」との説明を行っていたが、その置き換えがどのような形で進められるのか具体的な考え方は示されていない。

今後は、政府が業界との対話を通じて対応する姿勢を示しているが、どのようにソフトランディングして行くかは注視が必要だろう。

～危険な植物～

6月下旬に北海道大学構内で似た植物が発見され話題になった「バイカルハナウド（ジャイアントホグウィード）」をご存じでしょうか。

バイカルハナウドはセリ科の中央アジア原産の植物で高さは3m以上にもなり、白い傘状の花房が目立ちます。今まで日本国内では確認されたことはない植物です。この度なぜ話題になったかという、樹液が皮膚に付着した状態で紫外線を浴びると数年にわたって影響のある深刻な皮膚炎を起こし、目に入ると失明することもある（光毒性といえます）という大変恐ろしい植物だからです。19世紀に観賞用として



ヨーロッパへ持ち込まれたものが野生化してしまい、現在は駆除対象となり子供を近くで遊ばせないようにといった指導が行われているとのこと。幸い、この度発見された植物は駆除されました。なお、北海道大学からはバイカルハナウドと特定はできないものの外来種であり、光毒性物質が含まれていたとの分析結果が発表されています。

当初報道された際は各地でバイカルハナウドが生えている！とSNSが賑わいましたが、北海道にはバイカルハナウドに似た在来種が数多く生育しており、それを誤認したものと思われます。道を走っていると路肩にずらっと並んでいるような地区もあります。それらには光毒性はほとんど無いのでご安心ください。ここではその見分け方を簡単にご紹介します。

一番は特徴的な葉の形です。



今回見つかったバイカルハナウド類似植物



オオハナウド

いくつかの在来植物との違いです。

- | | | | |
|-----------|--------------|------------|------|
| ◎バイカルハナウド | 深い切込みの花びらがある | 葉の切込みが深い | 茎が太い |
| ○オオハナウド | 深い切込みの花びらがある | 葉の切込みが浅い | 茎が太い |
| ○アマニュウ | 花びらが桜のような形 | 葉が丸い | 茎が細い |
| ○エゾニュウ | 花びらが桜のような形 | 小葉が軸についている | 茎が太い |
| ○エゾノヨロイグサ | 花びらが桜のような形 | 小葉が軸についている | 茎が細い |

今回は拡散せず特に被害は無かったので良かったです。今後も何らかの形で種子が持ち込まれる等してバイカルハナウドが生育することも考えられます。もしバイカルハナウドを見つけた場合は、葉の形等を確認し、触らずに行政機関に連絡するようにしてください。万が一触ってしまった場合は、触れた場所を良く洗った後、1週間は光を通さないもので覆ってお過ごしてください。

また参考ですが、ベルガモットの精油にも光毒性物質が含まれています（除去済の製品も有り）。皮膚についた状態で日光に当たらないようにご注意ください。（札幌支店）

この度、田口より編集業務を引継ぎました。今年は残暑厳しき折から、くれぐれもご自愛のほどお願い申し上げます。

編集事務局：佐藤、山内

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp

URL <http://www.mcagri.jp>